

[成果情報名]果実外観に優れる四季成り性イチゴ新品種「山形S 7号」

[要約]四季成り性イチゴ新品種「山形S 7号」は果実外観に優れ、収量性が高い。「サマーティアラ」と比較して障害果の発生は少なく、高温期の果実硬度が高い。

[キーワード]イチゴ、四季成り性、「山形S 7号」、果実外観、収量性

[担当]山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課・産地研究室

[代表連絡先]yshonaisanchi@pref.yamagata.jp

[区分]野菜花き推進部会

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

本県のオリジナル四季成り性イチゴ品種「サマーティアラ」は、食味に優れるものの、鶏冠果や夏季高温による種浮果等の障害果の発生により収量が低く、新たな品種が望まれている。そこで、収量性が高く、果実品質に優れる新たな品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 2012年度に「サマーティアラ（庄内産地研究室育成）」を種子親、「なつじろう（地方独立行政法人 北海道立総合研究機構育成）」を花粉親として、交配により得られた実生から、2014年度に優良系統として選抜した。
2. 草姿は立性で、草勢は“やや強い”。果実は円錐形で光沢があり、外観が優れる。そう果の落ち込みは「サマーティアラ」より深い（表1、図1、2）。
3. 3月に定植した場合、6月から収穫が可能で、11月下旬までの10a換算商品収量は4.5tである（表2）。
4. 鶏冠果や種浮果等の障害果の発生は、「サマーティアラ」より少ない（表2）。
5. 高温期（7～9月）の果実硬度は、「サマーティアラ」より高い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 庄内産地研究室（酒田市）で試験した結果である。
2. 「サマーティアラ」と同様の給液管理で栽培した場合、夏以降草勢の低下が見られるため、花房管理（着果制限）と併せて給液ECを調整する等、草勢維持に努める。
3. 2022年12月の園芸作物奨励品種決定調査検討会で普及性が高いと評価され、2023年1月の職務育成品種登録審査会を経て、2023年3月に品種登録出願し、2023年10月に品種登録出願公表となった。
4. 関連する既往の成果（新しい技術の試験研究成果）
2016年度 研究成果情報「いちご四季成り性有望系統「砂丘S 7号」の特性」（政）
2022年度 〃 「四季成り性イチゴ新品種「山形S 7号」の品種識別技術」（研）

[具体的データ]



図1 草姿（撮影：2022/7/4）



図2 果実外観

表1 草姿・草勢および果実形質²⁾（2020、2021庄内産地研究室）

品種	開花始期(2021/5/24)		果形 ¹⁾			果形	果皮色	果肉色	果心の色	そう果の落ち込み	光沢	空洞
	草姿	草勢	たて(mm)	よこ(mm)	たて/よこ							
山形S7号	立性	やや強	41.1	36.8	1.12	円錐形	橙赤	淡桃	淡赤	中	中	無又は小
サマーティアラ	立性	やや強	40.0	33.3	1.20	円錐形	赤	赤	赤	小	中	中

z) 農林水産省いちご属審査基準に基づき判断 y) たて：へた基部から先端の長さ よこ：最も幅が広い部分の長さ 第1花房の2,3番果調査

表2 商品収量、障害果の発生割合²⁾ならびに果実品質（2021、2022庄内産地研究室）

年次	品種名	定植日 (月日)	収穫 開始日 (月日)	収穫 終了日 (月日)	商品収量 ²⁾						10a換算 商品収量 (t/10a)	平均 1果重 (g)		
					6月 (g/株)	7月 (g/株)	8月 (g/株)	9月 (g/株)	10月 (g/株)	11月 (g/株)			合計 (g/株)	
2021	山形S7号(花房管理無し)	3/23	6/3	11/29	133	122	71	91	98	52	566	3.3	11.8	
	サマーティアラ(花房管理無し)				92	83	6	79	62	37	360	2.1	12.2	
2022	山形S7号(花房管理有り) ³⁾	3/22	6/8	11/22	83	167	140	154	140	89	774	4.5	11.8	
	山形S7号(花房管理無し)				86	181	157	51	180	82	737	4.3	11.1	
	サマーティアラ(花房管理無し)				71	130	90	71	85	99	548	3.2	12.4	
年次	品種名	鶏冠果 (%)	種浮果 (%)	受精不良果 (%)	先詰果 (%)	先白果 (%)	その他 ¹⁾ (%)							
2021	山形S7号(花房管理無し)	0.7	0.1	5.0	0.3	0.1	0.0							
	サマーティアラ(花房管理無し)	5.8	11.9	5.1	0.1	0.7	0.5							
2022	山形S7号(花房管理無し)	0.4	0.1	5.8	0.0	0.3	0.9							
	サマーティアラ(花房管理無し)	4.6	7.7	6.0	0.3	1.0	0.3							
年次	品種名	硬度 ¹⁾ (kg/3mmφ)						糖度 ¹⁾ (° Brix)	酸度 ¹⁾ (%)	糖酸比				
		6月	7月	8月	9月	10月	11月							
2021	山形S7号(花房管理無し)	0.30	0.32	0.40	0.40	0.39	0.35	7.3	0.75	9.8				
	サマーティアラ(花房管理無し)	0.23	0.28	0.31	0.38	0.39	0.41	8.5	0.83	10.2				
2022	山形S7号(花房管理無し)	0.30	0.32	0.32	0.35	0.29	0.29	7.6	0.78	9.7				
	サマーティアラ(花房管理無し)	0.29	0.19	0.27	0.27	0.24	0.29	8.6	0.85	10.1				

z) 株当たり総収穫個数に対する株当たり個数割合

y) 株当たり花房数を3本、1花房当たり果実数を3果に制限した(6/27～8/23)

x)「サマーティアラ」出荷規格で区分した秀品(果形が良く整ったもの7g以上28g未満)及び丸秀品(鶏冠果の軽微なものを含む)

w) 病害虫被害果、みぞ果等

v) 藤原果実硬度計KM-1(針頭:円筒形、3mm径、10mm高)で測定 u) ATAGO PR-101で測定、6～11月の平均値

t) 滴定酸度クエン酸換算値(採取果汁1ml、0.1N-NaOH(1ml=0.0064gクエン酸)で滴定)、6～11月の平均値

※給液EC:2021年は0.3～0.6dS/m、2022年は9/25までは0.3～0.6dS/m、9/26以降は1.0dS/m、10/13以降は1.3dS/mで管理した。

※クラウン冷却:2021年はクラウン冷却実施せず、2022年は6/21～9/20までクラウン冷却を実施した。

※2021年は1区8株3反復、2022年は1区8株2反復調査

※2021年、2022年も6月下旬に2、3芽に整理し、着果～収穫中の花房2本残して摘除

(山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2018～2022 年度

研究担当者：五十嵐美穂（現：病害虫防除所庄内支所）、藤島弘行（現：最上農業技術普及課）、山崎紀子（現：東北農林専門職大学附属農林大学校）、小松佳奈（元：庄内産地研究室）、上田七瀬（現：酒田農業技術普及課）、伊藤聡子（現：庄内産地研究室）、伊藤政憲（元：庄内産地研究室）

発表論文等：1）品種登録出願公表（2023 年 10 月、出願番号：36700）

2）山形県農業研究報告第 17 号（2025 年 3 月）

普及対象地域：山形県内限定